

5-2 福祉施設

(1) 施設概要

本市は、老人憩の家や介護予防拠点施設などの福祉施設を6施設有しています。地域別では打田地域に3施設のほか、粉河地域、桃山地域及び貴志川地域にそれぞれ1施設が立地しています。

図表 福祉施設の概要

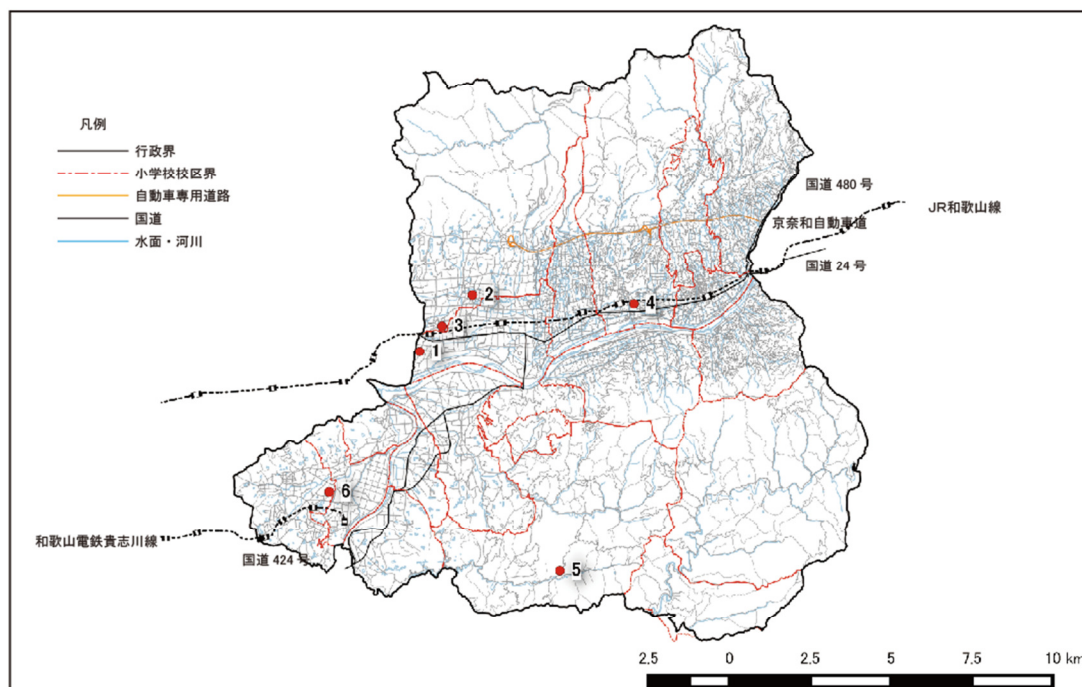
地域	No.	施設名	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設施設等	管理運営状況
					名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
打田	1	井阪文化会館	1996	341	井阪文化会館	S	1996	不要	-	○1	直営
	2	古和田会館	1982	747	古和田会館	RC	1982	不要	-		直営
		老人憩いの家			老人憩いの家	W	1992	不要	-		
	3	東国分老人憩の家	1996	136	老人憩の家	S	1996	不要	-	※1	直営
粉河	4	旧レスパイト粉河	1996	72	障害者福祉施設	SRC	1996	不要	-	※2	直営
桃山	5	介護予防拠点施設（蛍の里）	1981	627	体育館	S	1982	不要	-		直営
					介護予防施設	S	1981	不要	-		
貴志川	6	貴志川町老人憩の家 （貴志川生涯学習センター内）	1994	148	（貴志川生涯学習センターを参照）						直営

○1：教育集会所を併設。

※1「3 東国分老人憩の家」は、平成27年度より地元移管。

※2「4 旧レスパイト粉河」は、利用目的達成のため平成25年度用途廃止。

図表 福祉施設の配置状況



(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

古和田会館と介護予防拠点施設（蛭の里）は築 30 年以上経過していますが、他は概ね 20 年と比較的新しい施設が多く、全施設耐震補強済みで劣化も報告されていないことから、評価ランクは a 又は b となっています。

図表 福祉施設の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域区分	施設名	建築年	経過年数	評価点	劣化状況	評価点	耐震補強	評価点	評価点合計	評価ランク	備考 (併設の有無)
1	打田	井阪文化会館	H8(1996)	19	15	0	20	不要	10	45	a	
2	打田	古和田会館	S57(1982)	33	5	0	20	不要	10	35	b	
3	打田	東国分老人憩の家	H8(1996)	19	15	0	20	不要	10	45	a	
4	粉河	旧レスパイト粉河	H8(1996)	19	15	0	20	不要	10	45	a	※2
5	桃山	介護予防拠点施設（蛭の里）	S57(1982)	33	5	2	15	不要	10	30	b	
6	貴志川	貴志川町老人憩の家 (貴志川生涯学習センター内)	H6(1994)	21	10	4	5	不要	10	25	c	※1
特記事項		※1 主施設の評価結果を記載。 ※2 「4 旧レスパイト粉河」は、利用目的達成のため平成 25 年度用途廃止。										

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価方法の設定

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の利用者数の増減に基づく「施設の需要」、利用者1人当たりのコストに基づく「経費の多寡」を設定しました。
これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 福祉施設の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (30点満点)	利用者数	平成23年～25年における利用者数について、以下の増減率の推移より4段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 30点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が3時点 20点: 対前年比増が2時点 10点: 対前年比増が1時点 5点: 対前年比増が無し
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (30点満点)	利用者数1人当たりのコスト総額	利用者数1人当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を4段階で評価。 30点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 20点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額～+10%以内 5点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の+10%超
②-3 評価結果のまとめ		
評価ランク (60点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】45点(60点×75%)超 【B】30点(60点×50%)超45点以下 【C】15点(60点×25%)超15点以下 【D】15点以下	

施設の需要

古和田会館と介護予防拠点施設（蛍の里）以外は利用者は減少傾向のため、評価点は5ないしは10点と低くなっています。

なお、旧レスパイト粉河については、既に用途廃止となっていますが、評価点5点を付与しています。

図表 福祉施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要				将来の 需要	評価点
			実績値			評価点		
			H23→24	H24→25	H23→25		予測値	
1	打田	井阪文化会館	3.9	▲ 10.8	▲ 7.9	10	-	-
2		古和田会館	6.4	3.9	9.5	30	-	-
3		東国分老人憩の家	▲ 37.8	▲ 74.7	▲ 534.7	5	-	-
4	粉河	旧レスパイト粉河 ※	-	-	-	5	-	-
5	桃山	介護予防拠点施設（蛍の里）	5.0	7.6	11.5	30	-	-
6	貴志川	貴志川町老人憩の家 （貴志川生涯学習センター内）	▲ 10.1	▲ 29.4	▲ 57.7	5	-	-

- : データ無し

※現在閉鎖中の施設

経費の多寡

利用者一人あたりのコストは 45 円/人～3,581 円/人と大きな開きがあります。

なお、旧レスパイト粉河については、既に用途廃止となっていますが、評価点 5 点を付与しています。

図表 福祉施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床 面積	利用 者数	維持管理・運営コスト				利用者一人あたりのコスト		
					維持 管理費	運営 経費	人件費	総額	総額	平均額 との差	評価点
					㎡	人	万円	万円	円/人	%	点
1	打田	井阪文化会館	341.0	4,002	90	35	592	717	1,791	74.5	5
2		古和田会館	747.1	16,334	164	100	1,246	1,510	924	▲ 9.9	20
3		東国分老人憩の家	136.1	836	18	12	0	30	364	▲ 64.6	30
4	粉河	旧レスパイト粉河 ※	72.0	—	—	—	—	—	—	—	5
5	桃山	介護予防拠点施設（蜷の里）	627.0	1,349	93	389	0	483	3,581	248.8	5
6	貴志川	貴志川町老人憩の家 （貴志川生涯学習センター内）	148.0	3,265	4	10	0	15	45	▲ 95.6	30
全 体			983	5,449	116	412	0	528	1,026		

—：データ無し

※現在閉鎖中の施設

「施設機能（サービス面）」の評価結果

古和田会館は現在の需要、経費の多寡とも評価点が高いため A ランクに、井阪文化会館は逆に D ランク、他は A または B ランクとなっています。

図表 福祉施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の 需要	将来の 需要	施設の 配置	経費の 多寡	評価点 合計	ランク
1	打田	井阪文化会館	10	—	—	5	15	D
2		古和田会館	30	—	—	20	50	A
3		東国分老人憩の家	5	—	—	30	35	B
4	粉河	旧レスパイト粉河 ※	5	—	—	5	10	D
5	桃山	介護予防拠点施設（蜷の里）	30	—	—	5	35	B
6	貴志川	貴志川町老人憩の家 （貴志川生涯学習センター内）	5	—	—	30	35	B

—：データ無し

※現在閉鎖中の施設

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

貴志川町老人憩の家を除くと、全施設とも建物性能がa又はbランクのため、施設機能がDランクの井阪文化会館と旧レスパイト粉河は区分2に、他は区分1に分類されます。

図表 福祉施設の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	評価ランク		分析結果
			建物性能 (ハード面)	施設機能 (サービス面)	
1	打田	井阪文化会館	a	D	区分2
2	打田	古和田会館	b	A	区分1
3	打田	東国分老人憩の家	a	B	区分1
4	粉河	旧レスパイト粉河	a	D	区分2
5	桃山	介護予防拠点施設(蜷の里)	b	B	区分1
6	貴志川	貴志川町老人憩の家 (貴志川生涯学習センター内)	c	B	区分3

※ 赤字は現在閉鎖中の施設

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	区分3 貴志川町老人憩の家 (貴志川生涯学習センター内)		区分1 古和田会館 介護予防拠点施設(蜷の里) 東国分老人憩の家	
	B				
	C	区分4		区分2 井阪文化会館 旧レスパイト粉河	
	D				
		d	c	b	a
		ハード面			

※ 赤字は現在閉鎖中の施設

※ 斜体は他の施設内に設置されている施設

5－3 診療所

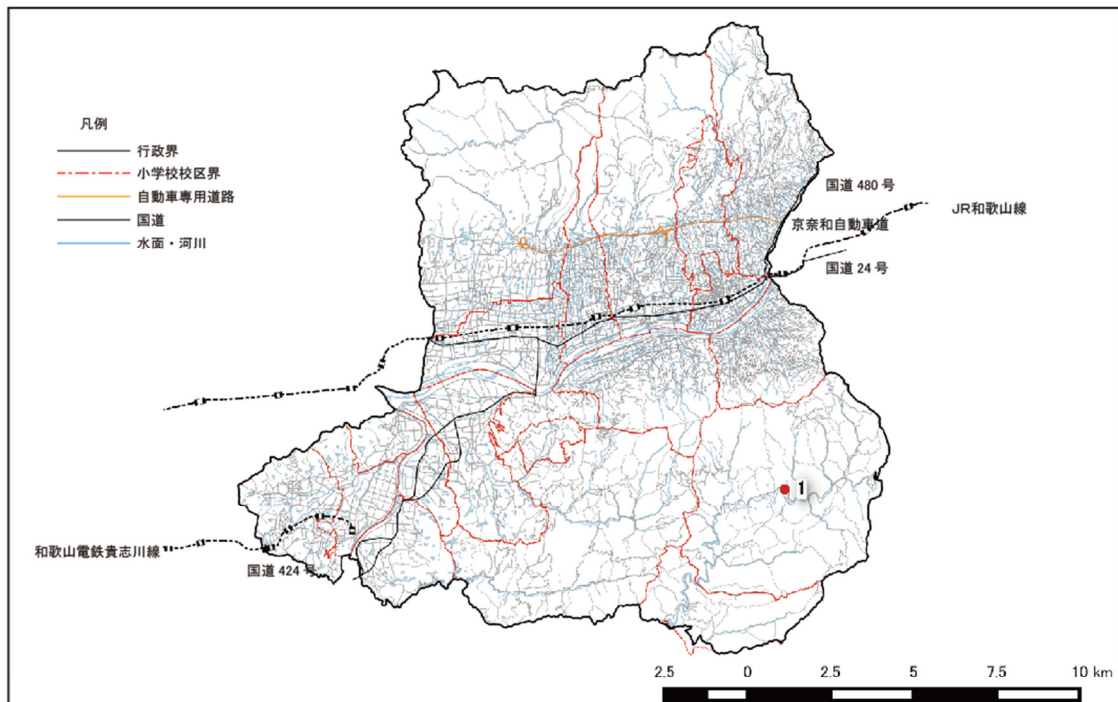
(1) 施設概要

本市が現在有する診療所は、粉河地域の国民健康保険直営鞆淵診療所 1 施設です。

図表 診療所の概要

地域	No.	施設名	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設 施設等	管理運営 状況
					名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
粉河	1	国民健康保険直営鞆淵診療所	1973	232	診療所	S	1975	未実施	未実施		直営

図表 診療所の配置状況



(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

国民健康保険直営瀬瀬診療所は 1975 年に建設され築 40 年と古く、新耐震基準（昭和 56 年 6 月）以前の建物のため耐震補強も必要で有り、評価は c ランクとなっています。

図表 診療所の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域 区分	施設名	建築年	経過 年数	評価 点	劣化 状況	評価 点	耐震 補強	評価 点	評価点 合計	評価 ランク	備考 (併設の 有無)
1	粉河	国民健康保険直営瀬瀬診療所	S50(1975)	40	0	1	15	必要	0	15	c	
特記事項												

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価方法の設定

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の利用者数の増減に基づく「施設の需要」、利用者 1 人当たりのコストに基づく「経費の多寡」を設定しました。
これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 診療所の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (30 点満点)	利用者数	平成 23 年～25 年における利用者数について、以下の増減率の推移より 4 段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 30 点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が3時点 20 点: 対前年比増が2時点 10 点: 対前年比増が1時点 5 点: 対前年比増が無し
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (30 点満点)	利用者数1人当たりのコスト総額	利用者数1人当たりのコスト総額(平成 23～25 年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を 4 段階で評価。 30 点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 20 点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10 点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額～+10%以内 5 点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の+10%超
②-3 評価結果のまとめ		
評価ランク (60 点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を 4 段階でランク付け。 【A】45 点(60 点×75%)超 【B】30 点(60 点×50%)超 45 点以下 【C】15 点(60 点×25%)超 15 点以下 【D】15 点以下	

施設の需要

利用者は平成 23 年度以降、減少傾向で推移していますので、評価点も 5 点と低くなっています。

図表 診療所の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要				将来の需要	
			実績値			評価点	評価点	評価点
			H23→24	H24→25	H23→25			
1	粉河	国民健康保険直営荻淵診療所	▲ 6.2	▲ 3.0	▲ 10.0	5	-	-

－：データ無し

経費の多寡

診療所は 1 施設のため他施設との比較が出来ませんが、評価点は 10 点を付与しています。

図表 診療所の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床面積 ㎡	利用者数 人	維持管理・運営コスト				利用者一人あたりのコスト		
					維持管理費	運営経費	人件費	総額	総額	平均額との差	評価点
					万円	万円	万円	万円	円/人	%	
1	粉河	国民健康保険直営荻淵診療所	231.8	3,632	220	3,374	4,306	7,900	21,752	-	10
全 体			232	3,632	220	3,374	4,306	7,900	21,752		

－：データ無し

「施設機能（サービス面）」の評価結果

現在の需要、経費の多寡とも評価が低いいため D ランクとなっています。

図表 診療所の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の需要	将来の需要	施設の配置	経費の多寡	評価点合計	ランク
1	粉河	国民健康保険直営荻淵診療所	5	-	-	10	15	D

－：データ無し

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

建物性能、施設機能とも評価が低く、区分4に分類されます。

図表 診療所の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	評価ランク		分析結果
			建物性能 (ハード面)	施設機能 (サービス面)	
1	粉河	国民健康保険直営鞆渚診療所	c	D	区分4

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	区分3		区分1	
	B				
	C	区分4		区分2	
	D				
		d	c	b	a
		ハード面			

6 スポーツレクリエーション施設

6-1 スポーツ施設

(1) 施設概要

本市は現在、体育館、武道館、陸上競技場などのスポーツ施設を 12 施設有しています。地域別では、打田地域に 1 施設、粉河地域及び桃山地域にそれぞれ 2 施設、那賀地域に 3 施設、貴志川地域に 4 施設が立地しています。

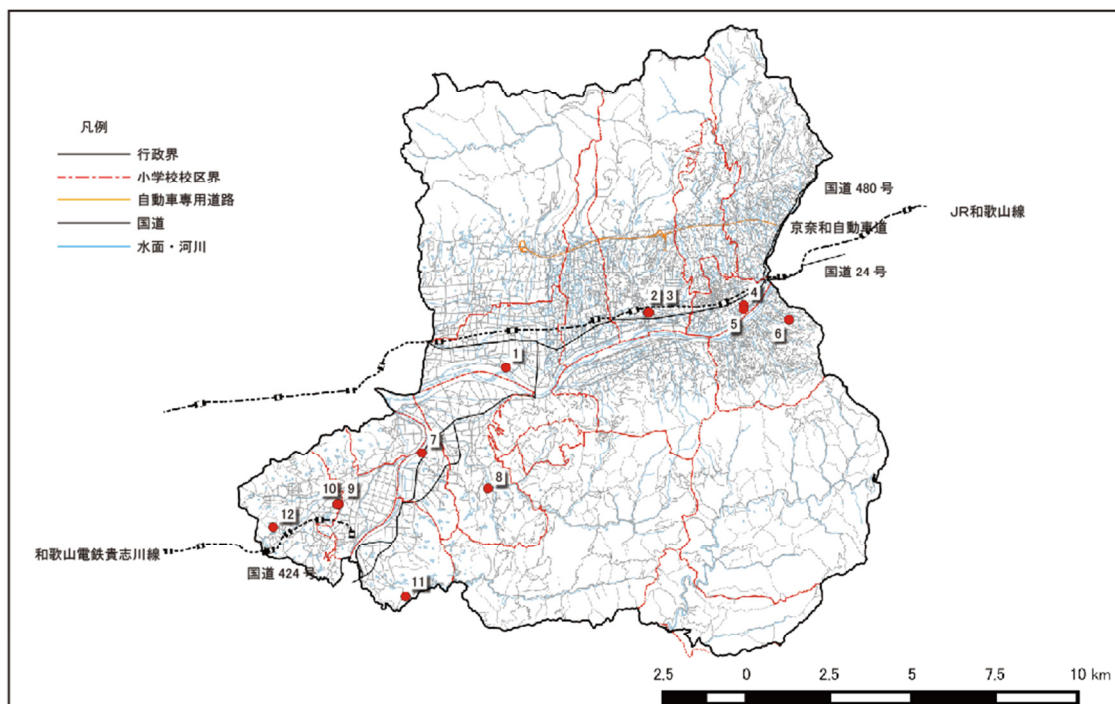
図表 スポーツ施設の概要

地域	No.	施設名	小分類	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設施設等	管理運営状況
						名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
打田	1	打田スポーツ公園	公園等	2002	131	管理棟	CB	2002	不要	-		直営
粉河	2	粉河体育館	体育館等	1963	1,584	体育館	SRC	1962	(不明)	(不明)	※1	直営
	3	粉河武道館	体育館等	1975	1,035	武道館	S	1975	(不明)	(不明)	※2	直営
那賀	4	B&G 財団那賀海洋センター	公園等	1996	1,084	プール棟	RC	1996	不要	-		直営
	5	那賀体育館	体育館等	1997	2,139	体育館	RC	1997	不要	-		直営
	6	愛宕池公園	公園等	2008	182	センターハウス	RC	2008	不要	-		直営
桃山	7	桃山勤労者体育センター	体育館等	1985	1,008	体育館	RC	1985	不要	-		直営
	8	桃源郷運動公園 陸上競技場	公園等	2006	1,250	スタンド棟 管理事務所	SRC W	2006 1983	不要 不要	- -		直営
貴志川	9	貴志川体育館	体育館等	1990	1,914	体育館	S	1973	不要	-		直営
	10	貴志川トレーニングプラザ	公園等	2003	303	トレーニング室、 事務所	S	2003	不要	-		直営
	11	貴志川スポーツ公園	公園等	1998	230	事務所	RC	1998	不要	-		直営
	12	長山ふれあい公園	公園等	1993	50	事務所	W	1993	不要	-		直営

※1 「2 粉河体育館」は平成 27 年度移転。(旧粉河中学校体育館に移転)

※2 「3 粉河武道館」は平成 27 年度移転。(旧粉河中学校格技場に移転)

図表 スポーツ施設の配置状況



(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

スポーツ施設の多くが1990年代～2000年代に建設され築30年未満の施設が多く、評価もa又はbランクが主体となっています。粉河体育館、粉河武道館及び貴志川体育館は新耐震基準（昭和56年6月）以前に建設された施設で、cランクとなっています。

図表 スポーツ施設の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域	施設名	建築年	経過年数		劣化状況		耐震補強		評価点 合計	評価 ランク	備考 (併設の有無)
					評価点		評価点		評価点			
1	打田	打田スポーツ公園	H14(2002)	13	15	0	20	不要	10	45	a	
2	粉河	粉河体育館	S37(1962)	53	0	2	15	必要	0	15	c	
3		粉河武道館	S50(1975)	40	0	2	15	必要	0	15	c	
4	那賀	B&G 財団那賀海洋センター	H8(1996)	19	15	0	20	不要	10	45	a	
5		那賀体育館	H9(1997)	18	15	0	20	不要	10	45	a	
6		愛宕池公園	H20(2008)	7	20	0	20	不要	10	50	a	
7	桃山	桃山勤労者体育センター	S60(1985)	30	5	1	15	不要	10	30	b	
8		桃源郷運動公園陸上競技場	H18(2006)	9	20	2	15	不要	10	45	a	
9	貴志川	貴志川体育館	S48(1973)	42	0	2	15	必要	0	15	c	
10		貴志川トレーニングプラザ	H15(2003)	12	15	1	15	不要	10	40	a	
11		貴志川スポーツ公園	H10(1998)	17	15	0	20	不要	10	45	a	
12		長山ふれあい公園	H5(1993)	22	10	1	15	不要	10	35	b	
特記事項												

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価方法の設定

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の利用者数の増減に基づく「施設の需要」、利用者1人当たりのコストに基づく「経費の多寡」を設定しました。
これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 スポーツ施設の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (30点満点)	利用者数	平成23年～25年における利用者数について、以下の増減率の推移より4段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 30点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が3時点 20点: 対前年比増が2時点 10点: 対前年比増が1時点 5点: 対前年比増が無し
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (30点満点)	利用者1人当たりのコスト総額	利用者1人当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を4段階で評価。 30点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 20点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額～+10%以内 5点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の+10%超
②-3 評価結果のまとめ		
評価ランク (60点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】45点(60点×75%)超 【B】30点(60点×50%)超45点以下 【C】15点(60点×25%)超30点以下 【D】15点以下	

施設の需要

現在の需要は増減はあるものの概ね利用者は増加傾向の施設が多く、評価点も20～30点が主体となっています。B&G 財団那賀海洋センターは減少傾向のため評価は5点と低くなっています。なお、愛宕池公園は利用者データが複数年分無いため、5点としました。

図表 スポーツ施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要				将来の 需要	評価点
			実績値					
			H23→24	H24→25	H23→25	予測値		
1	打田	打田スポーツ公園	6.7	▲ 17.9	▲ 14.2	10	-	-
2	粉河	粉河体育館	23.3	30.8	38.0	30	-	-
3		粉河武道館	8.9	▲ 3.7	4.6	20	-	-
4	那賀	B&G 財団那賀海洋センター	▲ 9.6	▲ 14.6	▲ 29.5	5	-	-
5		那賀体育館	▲ 10.5	10.9	▲ 0.7	10	-	-
6		愛宕池公園	-	-	-	5	-	-
7	桃山	桃山勤労者体育センター	▲ 9.2	31.8	16.4	20	-	-
8		桃源郷運動公園陸上競技場	50.5	▲ 7.3	28.3	20	-	-
9	貴志川	貴志川体育館	30.4	▲ 23.1	0.3	20	-	-
10		貴志川トレーニングプラザ	1.7	8.7	9.5	30	-	-
11		貴志川スポーツ公園	15.2	▲ 26.1	▲ 17.6	10	-	-
12		長山ふれあい公園	2.0	10.7	11.4	30	-	-

-：データ無し

経費の多寡

利用者一人あたりのコストを見ると、36 円/人～1,090 円/人と差が大きく、利用者数より施設の内容によってコストに差が見られます。

図表 スポーツ施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床 面積	利用 者数	維持管理・運営コスト				利用者一人あたりのコスト		
					維持 管理費	運営 経費	人件費	総額	総額	平均額 との差	評価点
			㎡	人	万円	万円	万円	万円	円/人	%	点
1	打田	打田スポーツ公園	131	16,074	229	42	269	539	335	29	5
2	粉河	粉河体育館	1,584	10,026	160	131	0	291	290	11	5
3		粉河武道館	1,035	10,414	35	2	0	37	36	▲ 86	30
4	那賀	B&G 財団那賀海洋センター	1,084	5,537	244	0	0	244	440	69	5
5		那賀体育館	2,139	11,329	102	0	205	307	271	4	10
6		愛宕池公園	182	6,509	141	179	73	393	603	131	5
7	桃山	桃山勤労者体育センター	1,008	13,870	21	32	60	113	82	▲ 69	30
8		桃源郷運動公園陸上競技場	1,250	15,456	1,018	116	551	1,685	1,090	318	5
9	貴志川	貴志川体育館	1,914	58,742	215	9	0	224	38	▲ 85	30
10		貴志川トレーニングプラザ	303	16,755	187	7	140	334	200	▲ 23	30
11		貴志川スポーツ公園	230	45,061	941	49	254	1,245	276	6	10
12		長山ふれあい公園	50	16,623	25	8	88	121	73	▲ 72	30
全 体			3,747	152,635	2,387	189	1,034	3,609	261		

「施設機能（サービス面）」の評価結果

現在の需要と経費の多寡ともに評価点が5点のB&G財団那賀海洋センターと愛宕池公園はDランクに、打田スポーツ公園、那賀体育館、桃源郷運動公園陸上競技場、貴志川スポーツ公園はCランクとなっています。

図表 スポーツ施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の 需要	将来の 需要	施設の 配置	経費の 多寡	評価点 合計	ランク
1	打田	打田スポーツ公園	10	-	-	5	15	D
2	粉河	粉河体育館	30	-	-	5	35	B
3		粉河武道館	20	-	-	30	50	A
4	那賀	B&G財団那賀海洋センター	5	-	-	5	10	D
5		那賀体育館	10	-	-	10	20	C
6		愛宕池公園	5	-	-	5	10	D
7	桃山	桃山勤労者体育センター	20	-	-	30	50	A
8		桃源郷運動公園陸上競技場	20	-	-	5	25	C
9	貴志川	貴志川体育館	20	-	-	30	50	A
10		貴志川トレーニングプラザ	30	-	-	30	60	A
11		貴志川スポーツ公園	10	-	-	10	20	C
12		長山ふれあい公園	30	-	-	30	60	A

-：データ無し

③「建物性能」と「施設機能」による２軸分析評価

建物性能がcランクの粉河体育館と粉河武道館、貴志川体育館は区分3に、それ以外の施設は施設機能の評価結果に応じて区分1もしくは区分2に分類されます。

図表 スポーツ施設の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	小分類	評価ランク		分析結果
				建物性能 (ハード面)	施設機能 (サービス面)	
1	打田	打田スポーツ公園	公園等	a	D	区分2
2	粉河	粉河体育館	体育館等	c	B	区分3
3	粉河	粉河武道館	体育館等	c	A	区分3
4	那賀	B&G 財団那賀海洋センター	公園等	a	D	区分2
5	那賀	那賀体育館	体育館等	a	C	区分2
6	那賀	愛宕池公園	公園等	a	D	区分2
7	桃山	桃山勤労者体育センター	体育館等	b	A	区分1
8	桃山	桃源郷運動公園陸上競技場	公園等	a	C	区分2
9	貴志川	貴志川体育館	体育館等	c	A	区分3
10	貴志川	貴志川トレーニングプラザ	公園等	a	A	区分1
11	貴志川	貴志川スポーツ公園	公園等	a	C	区分2
12	貴志川	長山ふれあい公園	公園等	b	A	区分1

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	粉河武道館 貴志川体育館		桃山勤労者体育センター 長山ふれあい公園	貴志川トレーニングプラザ
		区分3		区分1	
	B	粉河体育館			
	C			那賀体育館 桃源郷運動公園陸上競技場 貴志川スポーツ公園	
		区分4		区分2	
	D			打田スポーツ公園 B&G 財団那賀海洋センター 愛宕池公園	
		d	c	b	a
		ハード面			

6-2 レクリエーション施設

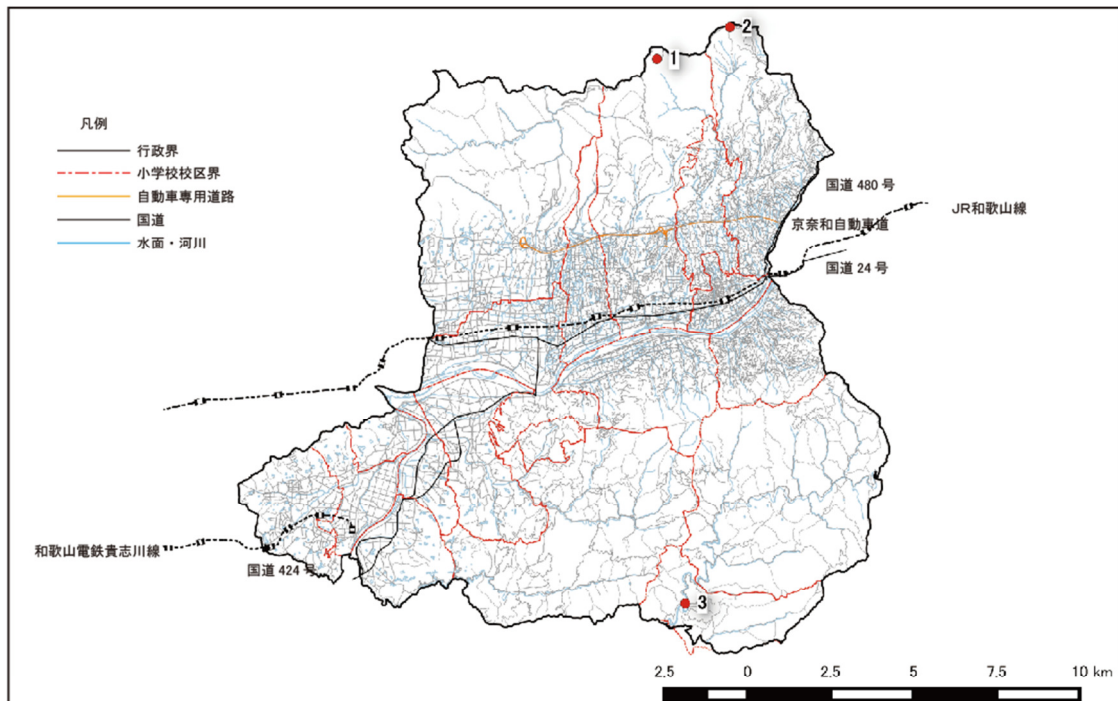
(1) 施設概要

本市は現在、粉河ハイランドパーク（粉河地域）、葛城高原休憩施設（那賀地域）、細野溪流キャンプ場（桃山地域）の3施設のレクリエーション施設を有しています。

図表 レクリエーション施設の概要

地域	No.	施設名	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設 施設等	管理運営 状況
					名称等	構造	建築年	耐震 診断	耐震 改修		
粉河	1	粉河ハイランドパーク	1993	486	管理棟	S	1993	不要	-		指定管理
那賀	2	葛城高原休憩施設	1984	152	管理棟	RC	1984	不要	-		直営
桃山	3	細野溪流キャンプ場	1989	267	バンガロー棟	W	2003	不要	-		指定管理
					管理棟	W	1988	不要	-		

図表 レクリエーション施設の配置状況



(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

レクリエーション施設は 1980 年代～90 年代に整備され、管理棟が主な施設となっています。

図表 レクリエーション施設の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域 区分	施設名	建築年	経過 年数	評価 点	劣化 状況	評価 点	耐震 補強	評価 点	評価点 合計	評価 ランク	備考 (併設の 有無)
1	粉河	粉河ハイランドパーク	H5(1993)	22	10	4	5	不要	10	25	c	
2	那賀	葛城高原休憩施設	S59(1984)	31	5	3	10	不要	10	25	c	
3	桃山	細野溪流キャンプ場	H15(2003)	12	15	0	20	不要	10	45	a	
特記事項												

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価方法の設定

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の利用者数の増減に基づく「施設の需要」、利用者 1 人当たりのコストに基づく「経費の多寡」を設定しました。

これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 レクリエーション施設の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (30 点満点)	利用者数	平成 23 年～25 年における利用者数について、以下の増減率の推移より 4 段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 30 点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が 3 時点 20 点: 対前年比増が 2 時点 10 点: 対前年比増が 1 時点 5 点: 対前年比増が無し
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (30 点満点)	利用者 1 人当たり のコスト総額	利用者 1 人当たりのコスト総額(平成 23～25 年度の平均額)について、最大値と最小値を 除いた平均額に対する多寡を 4 段階で評価。 30 点: 利用者 1 人当たりコスト総額が平均額の ▲10% 以下 20 点: 利用者 1 人当たりコスト総額が平均額以下～▲10% 未満 10 点: 利用者 1 人当たりコスト総額が平均額～+10% 以内 5 点: 利用者 1 人当たりコスト総額が平均額の +10% 超
②-3 評価結果のまとめ		
評価ランク (60 点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を 4 段階でランク付け。 【A】45 点(60 点×75%)超 【B】30 点(60 点×50%)超 45 点以下 【C】15 点(60 点×25%)超 30 点以下 【D】15 点以下	

施設の需要

現在の需要について平成23年度以降、利用者は増加傾向で評価点は30点となっています。
なお、葛城高原休憩施設は利用者データがありませんので、評価点は5点としました。

図表 レクリエーション施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要				将来の 需要	評価点
			実績値			評価点		
			H23→24	H24→25	H23→25			
1	粉河	粉河ハイランドパーク	15.4	4.4	17.0	30	-	-
2	那賀	葛城高原休憩施設	-	-	-	5	-	-
3	桃山	細野溪流キャンプ場	2.1	39.4	29.7	30	-	-

-：データ無し

経費の多寡

利用者一人あたりのコストは218円/人～625円/人で、比較できる施設数が2施設のため、コストの低い粉河ハイランドパークが30点、コストの高い細野溪流キャンプ場が5点となっています。なお、葛城高原休憩施設は一人あたりのコストの算定が出来ませんので、5点としました。

図表 レクリエーション施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床 面積	利用 者数	維持管理・運営コスト				利用者一人あたりのコスト		
					維持 管理費	運営 経費	人件費	総額	総額	平均額 との差	評価点
					万円	万円	万円	万円	円/人	%	点
1	粉河	粉河ハイランドパーク	486	24,519	533	0	0	533	218	▲ 48	30
2	那賀	葛城高原休憩施設	152	-	82	47	0	129	-	-	5
3	桃山	細野溪流キャンプ場	267	6,750	282	140	0	422	625	48	5
全 体			906	31,268	897	187	0	1,084	421		

-：データ無し

「施設機能（サービス面）」の評価結果

現在の需要と経費の多寡ともに30点の粉河ハイランドパークはAランク、経費の多寡の評価が低い細野溪流キャンプ場はBランク、施設機能の評価データの無かった葛城高原休憩施設はDランクとなっています。

図表 レクリエーション施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の 需要	将来の 需要	施設の 配置	経費の 多寡	評価点 合計	ランク
1	粉河	粉河ハイランドパーク	30	-	-	30	60	A
2	那賀	葛城高原休憩施設	5	-	-	5	10	D
3	桃山	細野溪流キャンプ場	30	-	-	5	35	B

-：データ無し

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

細野溪流キャンプ場は建物性能がaランク、施設機能Bがランクのため区分1に分類されます。粉河ハイランドパーク及び葛城高原休憩施設は、ともに建物性能がcランクとなり、施設機能Aランクの粉河ハイランドパークは区分3に、施設機能Dランクの葛城高原休憩施設区分4にそれぞれ分類されます。

図表 レクリエーション施設の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	評価ランク		分析結果
			建物性能 (ハード面)	施設機能 (サービス面)	
1	粉河	粉河ハイランドパーク	c	A	区分3
2	那賀	葛城高原休憩施設	c	D	区分4
3	桃山	細野溪流キャンプ場	a	B	区分1

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	粉河ハイランドパーク 区分3		細野溪流キャンプ場 区分1	
	B				
	C	葛城高原休憩施設 区分4		区分2	
	D				
		d	c	b	a
		ハード面			

7 産業施設

7-1 産業施設

(1) 施設概要

本市は現在、栽培施設や共同作業所、物産販売所など産業施設を 26 施設有しています。地域別では、打田地域及び粉河地域に 7 施設、那賀地域に 2 施設、桃山地域に 9 施設、貴志川地域に 1 施設となります。

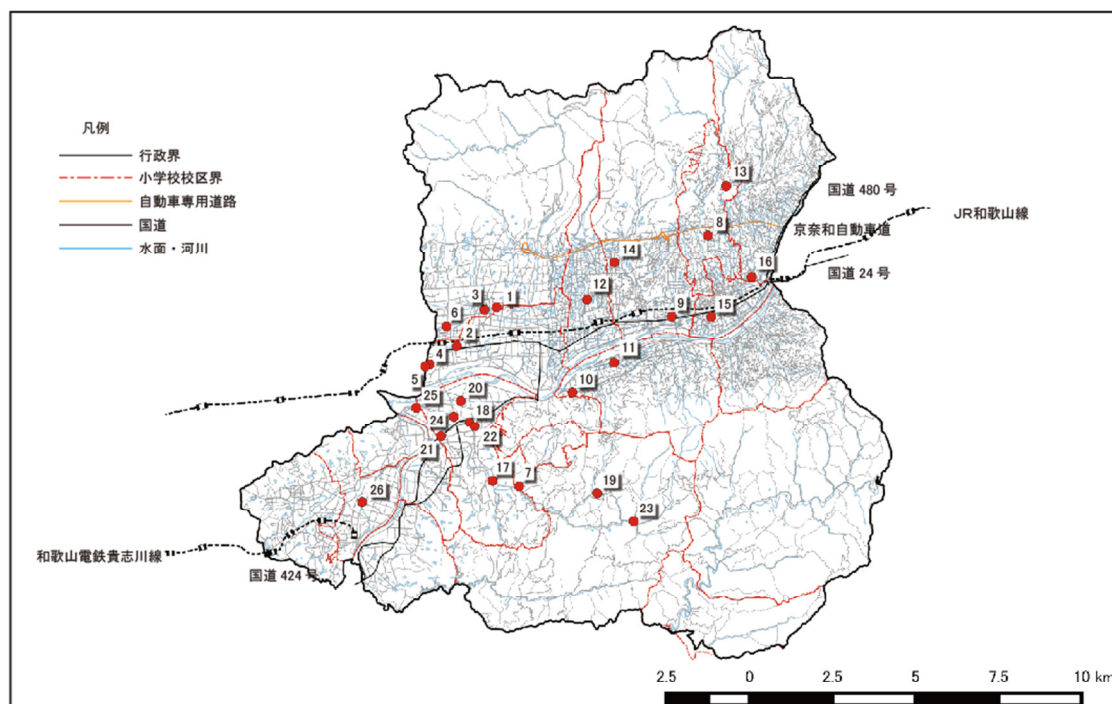
図表 産業施設の概要

地域	No.	施設名	小分類	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設 施設等	管理運営 状況
						名称等	構造	建築年	耐震診 断	耐震改 修		
打田	1	養液栽培施設	その他産業施設	不明	3,921	栽培棟	S	不明	未実施	未実施		管理委託
	2	野菜共同栽培施設	その他産業施設	1996	1,605	温室分	S	1996	不要	-	※1	管理委託
	3	古和田共同作業所	その他産業施設	1982	392	共同作業所	S	1982	不要	-		管理委託
	4	西井阪第 1 共同作業所	その他産業施設	1983	385	第 1 共同作業所	S	1983	不要	-		管理委託
	5	西井阪第 2 共同作業所	その他産業施設	1983	385	第 2 共同作業所	S	1983	不要	-		管理委託
	6	東国分共同作業所	その他産業施設	1986	559	共同作業所	S	1986	不要	-		管理委託
	7	寺山テイクオフ管理棟	その他産業施設	1993	74	管理棟	構造不明	1993	不要	-		直営
粉河	8	農村婦人の家	その他産業施設	1980	386	婦人の家	RC	1980	未実施	未実施		直営
	9	井田地域農業総合管理施設	その他産業施設	1996	283	農業管理施設	S	1996	不要	-		管理委託
	10	遠方構造改善センター	その他産業施設	1996	205	構造改善センター	S	1994	不要	-		管理委託
	11	風市構造改善センター	その他産業施設	1994	134	構造改善センター	S	1994	不要	-		管理委託
	12	農村改善センター	その他産業施設	1979	1,177	農村改善センター	RC	1979	未実施	未実施		直営
	13	東川原構造改善センター	その他産業施設	1994	164	構造改善センター	S	1994	不要	-		管理委託
	14	藤井地域資源総合管理施設	その他産業施設	1995	319	農業管理施設	S	1995	不要	-		管理委託
那賀	15	しいたけ不時栽培施設	その他産業施設	1993	1,839	栽培棟	S	1993	不要	-		管理委託
	16	青洲の里	物産販売所等	1997	1,431	食の健康館	RC	1997	不要	-		指定管理
桃山	17	桃源郷運動公園学習体験館	物産販売所等	2005	245	学習体験館	S	2005	不要	-		管理委託
	18	安楽川南部地域ブランド定着施設	その他産業施設	1998	196	ブランド定着施設	S	1999	不要	-		管理委託
	19	善田地区総合営農指導センター	その他産業施設	1996	198	営農指導センター	S	1997	不要	-		管理委託
	20	段地区総合営農指導センター	その他産業施設	1997	186	営農指導センター	S	1997	不要	-		管理委託
	21	調月北部地区農林業共同利用施設	その他産業施設	1987	391	農機具共同作業場	S	1987	不要	-		管理委託
	22	就業改善センター	その他産業施設	1979	804	就業改善センター	RC	1979	未実施	未実施		直営
	23	転作促進研修指導施設	その他産業施設	1981	223	研修指導施設	S	1981	不要	-		管理委託
	24	桃山産業振興館	物産販売所等	1998	250	産業振興館	S	1998	不要	-		指定管理
	25	石材加工共同作業場	その他産業施設	1987	523	大型共同作業場	S	1987	不要	-		管理委託
貴志川	26	ふるさと産品展示場 (貴志川観光物産センター)	物産販売所等	1992	256	展示場	W	1992	不要	-		指定管理

※1 「2 野菜共同栽培施設」は現在活動休止中。

《産業施設》
《産業施設》

図表 産業施設の配置状況



(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

産業施設の多くが 1980 年代～90 年代に建設された築 20 年～30 年の施設が多く、農村婦人の家や就業改善センターなど新耐震基準（昭和 56 年 6 月）以前の建物は、d ランクもしくは c ランクとなっています。

図表 産業施設の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域 区分	施設名	建築年	経過 年数	評価 点	劣化 状況	評価 点	耐震 補強	評価 点	評価点 合計	評価 ランク	備考 (併設の 有無)
1	打田	養液栽培施設	建築年不明	不明	0	2	15	必要	0	15	c	
2	打田	野菜共同栽培施設	H8(1996)	19	15	0	20	不要	10	45	a	
3	打田	古和田共同作業所	S57(1982)	33	5	3	10	不要	10	25	c	
4	打田	西井阪第 1 共同作業所	S58(1983)	32	5	3	10	不要	10	25	c	
5	打田	西井阪第 2 共同作業所	S58(1983)	32	5	3	10	不要	10	25	c	
6	打田	東国分共同作業所	S61(1986)	29	10	0	20	不要	10	40	a	
7	打田	寺山テイクオフ管理棟	H5(1993)	22	10	0	20	不要	10	40	a	
8	粉河	農村婦人の家	S55(1980)	35	5	4	5	必要	0	10	d	
9	粉河	井田地域農業総合管理施設	H8(1996)	19	15	0	20	不要	10	45	a	
10	粉河	遠方構造改善センター	H6(1994)	21	10	0	20	不要	10	40	a	
11	粉河	風市構造改善センター	H6(1994)	21	10	0	20	不要	10	40	a	
12	粉河	農村改善センター	S54(1979)	36	5	2	15	必要	0	20	c	
13	粉河	東川原構造改善センター	H6(1994)	21	10	0	20	不要	10	40	a	
14	粉河	藤井地域資源総合管理施設	H7(1995)	20	10	0	20	不要	10	40	a	
15	那賀	しいたけ不時栽培施設	H5(1993)	22	10	0	20	不要	10	40	a	
16	那賀	青洲の里	H9(1997)	18	15	1	15	不要	10	40	a	
17	桃山	桃源郷運動公園学習体験館	H17(2005)	10	15	1	15	不要	10	40	a	
18	桃山	安楽川南部地域ブランド定着施設	H11(1999)	16	15	0	20	不要	10	45	a	
19	桃山	善田地区総合営農指導センター	H9(1997)	18	15	0	20	不要	10	45	a	
20	桃山	段地区総合営農指導センター	H9(1997)	18	15	0	20	不要	10	45	a	
21	桃山	調月北部地区農林業 共同利用施設	S62(1987)	28	10	2	15	不要	10	35	b	
22	桃山	就業改善センター	S54(1979)	36	5	4	5	必要	0	10	d	
23	桃山	転作促進研修指導施設	S56(1981)	34	5	0	20	必要	0	35	b	
24	桃山	桃山産業振興館	H10(1998)	17	15	2	15	不要	10	40	a	
25	桃山	石材加工共同作業場	S62(1987)	28	10	2	15	不要	10	35	b	
26	貴志川	ふるさと産品展示場 (貴志川観光物産センター)	H4(1992)	23	10	0	20	不要	10	40	a	
特記事項												

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価方法の設定

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の利用者数の増減に基づく「施設の需要」、利用者1人当たりのコストに基づく「経費の多寡」を設定しました。
これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 産業施設の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (30点満点)	利用者数	平成23年～25年における利用者数について、以下の増減率の推移より4段階で評価。 1. 増減(H23→24)、2. 増減(H24→25)、3. 増減(H23→25) 30点: 対前年比増(横ばいを含む、以下同じ)が3時点 20点: 対前年比増が2時点 10点: 対前年比増が1時点 5点: 対前年比増が無し
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (30点満点)	利用者1人当たりのコスト総額	利用者1人当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を4段階で評価。 30点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の▲20%以下 20点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額以下～▲20%未満 10点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額～+20%以内 5点: 利用者1人当たりコスト総額が平均額の+20%超
②-3 評価結果のまとめ		
評価ランク (60点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】45点(60点×75%)超 【B】30点(60点×50%)超45点以下 【C】15点(60点×25%)超30点以下 【D】15点以下	

施設の需要

施設の需要について、定量的に評価できるデータとして青洲の里のみ複数年分利用者データの整理が出来ました。利用者は減少傾向で推移していますので、評価点は5点としています。また、他の施設についても利用データはありませんが、一律評価点5点を付与しました。

図表 「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）（産業施設）

No	地域	施設名	現在の需要				将来の 需要	評価点
			実績値					
			H23→24	H24→25	H23→25	評価点	予測値	
1	打田	養液栽培施設	-	-	-	5	-	-
2		野菜共同栽培施設	-	-	-	5	-	-
3		古和田共同作業所	-	-	-	5	-	-
4		西井阪第1共同作業所	-	-	-	5	-	-
5		西井阪第2共同作業所	-	-	-	5	-	-
6		東国分共同作業所	-	-	-	5	-	-
7		寺山テイクオフ管理棟	-	-	-	5	-	-
8	粉河	農村婦人の家	-	-	-	5	-	-
9		井田地域農業総合管理施設	-	-	-	5	-	-
10		遠方構造改善センター	-	-	-	5	-	-
11		風市構造改善センター	-	-	-	5	-	-
12		農村改善センター	-	-	-	5	-	-
13		東川原構造改善センター	-	-	-	5	-	-
14		藤井地域資源総合管理施設	-	-	-	5	-	-
15	那賀	しいたけ不時栽培施設	-	-	-	5	-	-
16		青洲の里	▲ 3	▲ 11	▲ 15	5	-	-
17	桃山	桃源郷運動公園学習体験館	-	-	-	5	-	-
18		安楽川南部地域ブランド定着施設	-	-	-	5	-	-
19		善田地区総合営農指導センター	-	-	-	5	-	-
20		段地区総合営農指導センター	-	-	-	5	-	-
21		調月北部地区農林業共同利用施設	-	-	-	5	-	-
22		就業改善センター	-	-	-	5	-	-
23		転作促進研修指導施設	-	-	-	5	-	-
24		桃山産業振興館	-	-	-	5	-	-
25		石材加工共同作業場	-	-	-	5	-	-
26	貴志川	ふるさと産品展示場(貴志川観光物産センター)	-	-	-	5	-	-

ー：データ無し

《産業施設》

《産業施設》

経費の多寡

紀の川市民（66,027人、H26.10.31現在（紀の川市調べ））一人あたりのコストで見ると、1円/人～330円/人と施設によって差が大きくなっています。

また、維持管理・運営コストのデータが無い施設については、一律評価点5点を付与しました。

図表 産業施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床面積 ㎡	利用者数 人	維持管理・運営コスト				市民一人あたりのコスト		
					維持管理費	運営経費	人件費	総額	総額	平均額との差	評価点
					万円	万円	万円	万円	円/人	%	点
1	打田	養液栽培施設	3,921	-	-	-	-	-	-	-	5
2		野菜共同栽培施設	1,605	-	-	-	-	-	-	-	5
3		古和田共同作業所	392	-	-	-	-	-	-	-	5
4		西井阪第1共同作業所	385	-	-	-	-	-	-	-	5
5		西井阪第2共同作業所	385	-	-	-	-	-	-	-	5
6		東国分共同作業所	559	-	-	-	-	-	-	-	5
7		寺山テイクオフ管理棟	74	-	-	-	-	-	-	-	5
8	粉河	農村婦人の家	386	250	52	8	45	105	16	▲ 43	30
9		井田地域農業総合管理施設	283	-	-	-	-	-	-	-	5
10		遠方構造改善センター	205	-	-	-	-	-	-	-	5
11		風市構造改善センター	134	-	-	-	-	-	-	-	5
12		農村改善センター	1,177	-	111	7	45	163	25	▲ 11	20
13		東川原構造改善センター	164	-	-	-	-	-	-	-	5
14		藤井地域資源総合管理施設	319	-	-	-	-	-	-	-	5
15	那賀	しいたけ不時栽培施設	1,839	-	-	-	-	-	-	-	5
16		青洲の里	1,431	42,498	244	1,933	0	2,177	330	1,087	5
17	桃山	桃源郷運動公園学習体験館	245	1,142	265	33	104	402	61	119	5
18		安楽川南部地域ブランド定着施設	196	-	-	-	-	-	-	-	5
19		善田地区総合営農指導センター	198	-	-	-	-	-	-	-	5
20		段地区総合営農指導センター	186	-	-	-	-	-	-	-	5
21		調月北部地区農林業共同利用施設	391	-	-	-	-	-	-	-	5
22		就業改善センター	804	-	274	0	0	274	41	49	5
23		転作促進研修指導施設	223	-	-	-	-	-	-	-	5
24		桃山産業振興館	250	32,844	5	0	0	5	1	▲ 97	30
25		石材加工共同作業場	523	-	0	150	0	150	23	▲ 18	20
26	貴志川	ふるさと産品展示場 （貴志川観光物産センター）	256	42,121	0	0	0	0	0	▲ 100	30
全 体			2,447	74,965	279	150	0	429	28		

ー：データ無し

「施設機能（サービス面）」の評価結果

現在の需要と経費の多寡ともにデータの無い施設が多く、評価点の低い施設が多いことから、Dランクの施設がほとんどとなっています。

図表 産業施設の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の 需要	将来の 需要	施設の 配置	経費の 多寡	評価点 合計	ランク
1	打田	養液栽培施設	5	-	-	5	10	D
2		野菜共同栽培施設	5	-	-	5	10	D
3		古和田共同作業所	5	-	-	5	10	D
4		西井阪第1共同作業所	5	-	-	5	10	D
5		西井阪第2共同作業所	5	-	-	5	10	D
6		東国分共同作業所	5	-	-	5	10	D
7		寺山テイクオフ管理棟	5	-	-	5	10	D
8	粉河	農村婦人の家	5	-	-	30	35	B
9		井田地域農業総合管理施設	5	-	-	5	10	D
10		遠方構造改善センター	5	-	-	5	10	D
11		風市構造改善センター	5	-	-	5	10	D
12		農村改善センター	5	-	-	20	25	C
13		東川原構造改善センター	5	-	-	5	10	D
14		藤井地域資源総合管理施設	5	-	-	5	10	D
15	那賀	しいたけ不時栽培施設	5	-	-	5	10	D
16		青洲の里	5	-	-	5	10	D
17	桃山	桃源郷運動公園学習体験館	5	-	-	5	10	D
18		安楽川南部地域ブランド定着施設	5	-	-	5	10	D
19		善田地区総合営農指導センター	5	-	-	5	10	D
20		段地区総合営農指導センター	5	-	-	5	10	D
21		調月北部地区農林業共同利用施設	5	-	-	5	10	D
22		就業改善センター	5	-	-	5	10	D
23		転作促進研修指導施設	5	-	-	5	10	D
24		桃山産業振興館	5	-	-	30	35	B
25		石材加工共同作業場	5	-	-	20	25	C
26	貴志川	ふるさと産品展示場（貴志川観光物産センター）	5	-	-	30	35	B

ー：データ無し

《産業施設》
《産業施設》

③「建物性能」と「施設機能」による2軸分析評価

建物性能がa又はbランク、施設機能がDランクの施設が多いため、区分2に分類される施設が多くなっています。

図表 産業施設の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	評価ランク		分析結果
			建物性能 (ハード面)	施設機能 (サービス面)	
1	打田	養液栽培施設	c	D	区分4
2	打田	野菜共同栽培施設	a	D	区分2
3	打田	古和田共同作業所	c	D	区分4
4	打田	西井阪第1共同作業所	c	D	区分4
5	打田	西井阪第2共同作業所	c	D	区分4
6	打田	東国分共同作業所	a	D	区分2
7	打田	寺山テイクオフ管理棟	a	D	区分2
8	粉河	農村婦人の家	d	B	区分3
9	粉河	井田地域農業総合管理施設	a	D	区分2
10	粉河	遠方構造改善センター	a	D	区分2
11	粉河	風市構造改善センター	a	D	区分2
12	粉河	農村改善センター	c	C	区分4
13	粉河	東川原構造改善センター	a	D	区分2
14	粉河	藤井地域資源総合管理施設	a	D	区分2
15	那賀	しいたけ不時栽培施設	a	D	区分2
16	那賀	青洲の里	a	D	区分2
17	桃山	桃源郷運動公園学習体験館	a	D	区分2
18	桃山	安楽川南部地域ブランド定着施設	a	D	区分2
19	桃山	善田地区総合営農指導センター	a	D	区分2
20	桃山	段地区総合営農指導センター	a	D	区分2
21	桃山	調月北部地区農林業共同利用施設	b	D	区分2
22	桃山	就業改善センター	d	D	区分4
23	桃山	転作促進研修指導施設	b	D	区分2
24	桃山	桃山産業振興館	a	B	区分1
25	桃山	石材加工共同作業場	b	C	区分2
26	貴志川	ふるさと産品展示場 (貴志川観光物産センター)	a	B	区分1

※ 赤字は現在休止中の施設

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

《産業施設》
《産業施設》

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	区分3		区分1	
	B	農村婦人の家		桃山産業振興館 ふるさと産品展示場 (貴志川観光物産センター)	
	C		農村改善センター	石材加工共同作業場	
	D	就業改善センター	区分4	区分2	野菜共同栽培施設 東国分共同作業所 寺山テイクオフ管理棟 井田地域農業総合管理施設 遠方構造改善センター 風市構造改善センター 東川原構造改善センター 藤井地域資源総合管理施設 しいたけ不時栽培施設 青洲の里 桃源郷運動公園学習体験館 安楽川南部地域ブランド定着施設 善田地区総合営農指導センター 段地区総合営農指導センター
		d	c	b	a

ハード面

※ 赤字は現在休止中の施設

《公営住宅》
《公営住宅》

8 公営住宅

8－1 公営住宅

(1) 施設概要

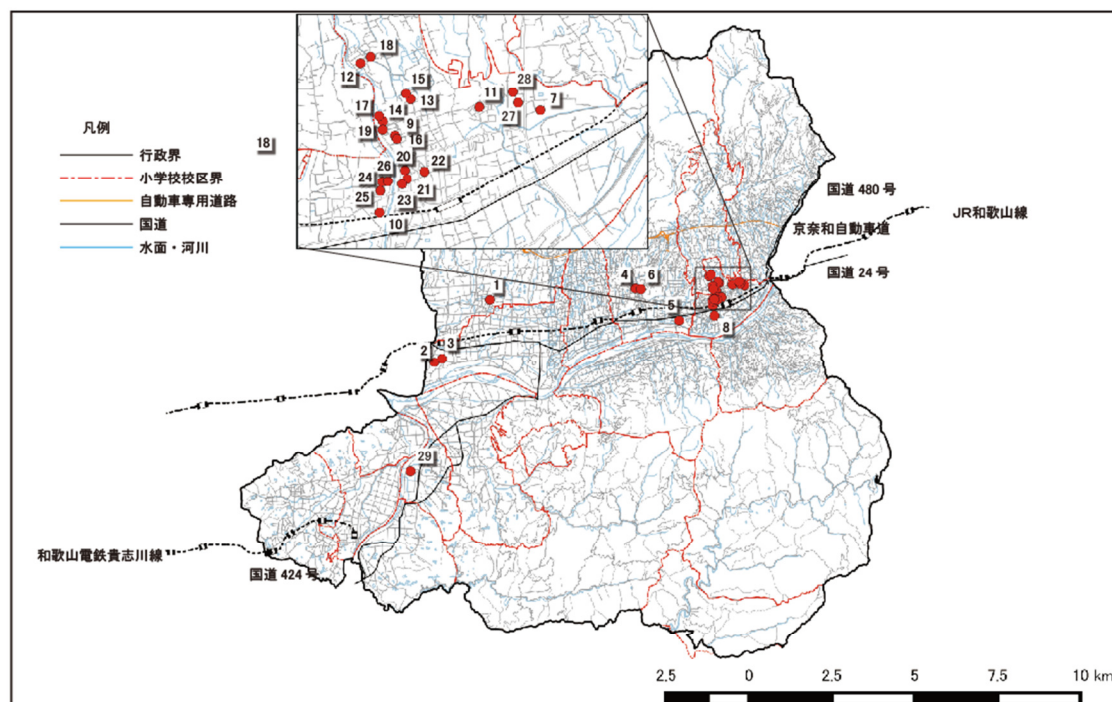
本市の保有する公営住宅は29施設となります。地域別では、那賀地域が22施設と最も多く、その他打田地域及び粉河地域にそれぞれ3施設、桃山地域に1施設となります。

図表 公営住宅の概要

地域	No	施設名	小分類	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設 施設等	管理 運営 状況
						名称等	構造	建築年	耐震 診断	耐震 改修		
打田	1	古和田改良住宅	改良住宅	1975	670	1棟	RC	1974	不要	-		直営
	2	西井阪（南）改良住宅	改良住宅	1976	356	1棟	RC	1975	不要	-		直営
	3	西井阪（北）改良住宅	改良住宅	1975	1,117	1棟	RC	1974	不要	-		直営
粉河	4	東町住宅	公営住宅	1961	83	1棟	W	1960	不要	-		直営
	5	井田公営住宅	公営住宅	1965	1,731	13号棟	W	1966	不要	-		直営
	6	鍛冶町住宅	公営住宅	1954	635	2棟	W	1954	不要	-		直営
那賀	7	応神公営住宅	公営住宅	1954	337	8号棟	W	1957	不要	-		直営
	8	後田公営住宅	公営住宅	1954	365	4号棟	W	1957	不要	-		直営
	9	下野井改良住宅	改良住宅	1972	3,078	1号棟	RC	1972	実施済	不要		直営
	10	下川原改良住宅	改良住宅	1980	147	K棟	RC	1979	不要	-		直営
	11	庄屋改良住宅	改良住宅	1979	1,761	J棟1	RC	1978	不要	-		直営
	12	第2中野井改良住宅	改良住宅	1981	1,773	K棟12	RC	1983	不要	-		直営
	13	中野井改良住宅	改良住宅	1975	1,908	E棟1	RC	1975	不要	-		直営
	14	下野井公営住宅	公営住宅	1974	798	1棟	RC	1973	不要	-		直営
	15	中野井公営住宅	公営住宅	1976	1,050	A棟	RC	1974	不要	-		直営
	16	下野井南改良住宅	改良住宅	1975	440	H棟1	RC	1975	不要	-		直営
	17	下野井北改良住宅	改良住宅	1976	587	G棟1	RC	1976	不要	-		直営
	18	上野井改良住宅	改良住宅	1979	734	I棟1	RC	1978	不要	-		直営
	19	西部改良住宅	改良住宅	1982	147	O棟	RC	1982	不要	-		直営
	20	南部第1改良住宅	改良住宅	1982	238	N棟	RC	1981	不要	-		直営
	21	南部第2改良住宅	改良住宅	1982	220	M棟	RC	1981	不要	-		直営
	22	南部第3改良住宅	改良住宅	1984	223	1棟	RC	1983	不要	-		直営
	23	南部第4改良住宅	改良住宅	1982	238	L棟	RC	1981	不要	-		直営
	24	王子第1改良住宅	改良住宅	1984	159	1棟	RC	1983	不要	-		直営
	25	王子第2改良住宅	改良住宅	1985	159	1棟	RC	1984	不要	-		直営
	26	王子第3改良住宅	改良住宅	1985	159	1棟	RC	1984	不要	-		直営
	27	城山（南）公営住宅	公営住宅	1965	1,291	1棟	RC	1965	不要	-		直営
	28	城山（北）公営住宅	公営住宅	1977	1,085	A棟	RC	1977	不要	-		直営
桃山	29	調月宮ノ前住宅	公営住宅	1968	678	1棟	CB	1968	不要	-		直営

《公営住宅》
《公営住宅》

図表 公営住宅の配置状況



《公営住宅》
《公営住宅》

(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価結果

建物性能（ハード面）についての評価結果は、全施設経過年数が30年以上経過し劣化も見られ、耐震補強も必要な施設が多いことから、評価がc又はdランクの施設が多くなっています。

図表 公営住宅の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域区分	施設名	建築年	経過年数	評価点	劣化状況	評価点	耐震補強	評価点	評価点合計	評価ランク	備考 (併設の有無)
1	打田	古和田改良住宅	S49(1974)	41	0	1	15	必要	0	15	c	
2	打田	西井阪（南）改良住宅	S50(1975)	40	0	1	15	必要	0	15	c	
3	打田	西井阪（北）改良住宅	S49(1974)	41	0	1	15	必要	0	15	c	
4	粉河	東町住宅	S35(1960)	55	0	0	20	必要	0	20	c	
5	粉河	井田公営住宅	S41(1966)	49	0	1	15	必要	0	15	c	
6	粉河	鍛冶町住宅	S29(1954)	61	0	0	20	必要	0	20	c	
7	那賀	応神公営住宅	S32(1957)	58	0	3	5	必要	0	5	d	
8	那賀	後田公営住宅	S32(1957)	58	0	3	5	必要	0	5	d	
9	那賀	下野井改良住宅	S47(1972)	43	0	2	10	不要	10	20	c	
10	那賀	下川原改良住宅	S54(1979)	36	5	3	5	必要	0	10	d	
11	那賀	庄屋改良住宅	S53(1978)	37	5	3	5	必要	0	10	d	
12	那賀	第2中野井改良住宅	S58(1983)	32	5	5	5	不要	10	20	c	
13	那賀	中野井改良住宅	S50(1975)	40	0	3	5	必要	0	5	d	
14	那賀	下野井公営住宅	S48(1973)	42	0	3	5	必要	0	5	d	
15	那賀	中野井公営住宅	S49(1974)	41	0	1	15	必要	0	15	c	
16	那賀	下野井南改良住宅	S50(1975)	40	0	3	5	必要	0	5	d	
17	那賀	下野井北改良住宅	S51(1976)	39	5	2	10	必要	0	15	c	
18	那賀	上野井改良住宅	S53(1978)	37	5	2	10	必要	0	15	c	
19	那賀	西部改良住宅	S57(1982)	33	5	0	20	不要	10	35	b	
20	那賀	南部第1改良住宅	S56(1981)	34	5	0	20	必要	0	25	c	
21	那賀	南部第2改良住宅	S56(1981)	34	5	0	20	必要	0	25	c	
22	那賀	南部第3改良住宅	S58(1983)	32	5	1	15	不要	10	30	b	
23	那賀	南部第4改良住宅	S56(1981)	34	5	0	20	必要	0	25	c	
24	那賀	王子第1改良住宅	S58(1983)	32	5	0	20	不要	10	35	b	
25	那賀	王子第2改良住宅	S59(1984)	31	5	1	15	不要	10	30	b	
26	那賀	王子第3改良住宅	S59(1984)	31	5	0	20	不要	10	35	b	
27	那賀	城山（南）公営住宅	S40(1965)	50	0	2	10	必要	0	10	d	
28	那賀	城山（北）公営住宅	S52(1977)	38	5	5	5	必要	0	10	d	
29	桃山	調月宮ノ前住宅	S43(1968)	47	0	1	15	必要	0	15	c	
特記事項												

②「施設機能（サービス面）」の評価

評価方法の設定

施設機能（サービス面）の評価にあたり、評価指標として現在の利用状況（入居率）に基づく「施設の需要」、1戸当たりのコストに基づく「経費の多寡」を設定しました。

これら指標毎の評価点を合計し、施設機能（サービス面）の総合評価を行いました。

図表 公営住宅の「施設機能（サービス面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
②-1 施設の需要		
現在の需要 (30点満点)	管理戸数に対する 入居個数 (入居率)	平成23年～25年における管理戸数に対する入居個数(入居率:入居戸数÷(管理戸数－政策空家戸数))について、以下の4段階で評価。 30点:稼働率1以上が3時点 20点:稼働率1以上が2時点 10点:稼働率1以上が1時点 5点:稼働率1以上が無し
②-2 経費の多寡		
経費の多寡 (30点満点)	延床面積当たりの コスト総額	各施設の延床面積当たりのコスト総額(平成23～25年度の平均額)について、最大値と最小値を除いた平均額に対する多寡を4段階で評価。 30点:1戸当たりコスト総額が平均額の▲10%以下 20点:1戸当たりコスト総額が平均額以下～▲10%未満 10点:1戸当たりコスト総額が平均額～+10%以内 5点:1戸当たりコスト総額が平均額の+10%超
②-3 評価結果のまとめ		
評価ランク (60点満点)	評価点の合計値に基づき、施設の機能を4段階でランク付け。 【A】45点(60点×75%)超 【B】30点(60点×50%)超45点以下 【C】15点(60点×25%)超15点以下 【D】15点以下	

《公営住宅》
《公営住宅》

施設の需要

ほとんどの施設で入居率（入居戸数÷（管理戸数－政策空家戸数））が1以上でしたが、平成25（2011）年では入居率が1を下回る施設が多くなっています。

図表 公営住宅の「施設機能（サービス面）」の評価結果（施設の需要）

No	地域	施設名	現在の需要				将来の需要	
			実績値（％）			評価点		評価点
			H23→24	H24→25	H23→25			
1	打田	古和田改良住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
2	打田	西井阪（南）改良住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
3	打田	西井阪（北）改良住宅	1.02	1.02	0.96	20	—	—
4	粉河	東町住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
5	粉河	井田公営住宅	1.02	1.02	0.96	20	—	—
6	粉河	鍛冶町住宅	1.13	1.13	0.75	20	—	—
7	那賀	応神公営住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
8	那賀	後田公営住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
9	那賀	下野井改良住宅	1.05	0.98	0.98	10	—	—
10	那賀	下川原改良住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
11	那賀	庄屋改良住宅	1.02	1.02	0.97	20	—	—
12	那賀	第2中野井改良住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
13	那賀	中野井改良住宅	1.05	1.09	0.86	20	—	—
14	那賀	下野井公営住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
15	那賀	中野井公営住宅	1.07	0.96	0.96	10	—	—
16	那賀	下野井南改良住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
17	那賀	下野井北改良住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
18	那賀	上野井改良住宅	1.11	1.00	0.89	20	—	—
19	那賀	西部改良住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
20	那賀	南部第1改良住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
21	那賀	南部第2改良住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
22	那賀	南部第3改良住宅	1.29	0.86	0.86	10	—	—
23	那賀	南部第4改良住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
24	那賀	王子第1改良住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
25	那賀	王子第2改良住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
26	那賀	王子第3改良住宅	1.20	0.60	1.20	20	—	—
27	那賀	城山（南）公営住宅	1.00	1.00	1.00	30	—	—
28	那賀	城山（北）公営住宅	1.06	0.99	0.95	10	—	—
29	桃山	調月宮ノ前住宅	1.08	0.96	0.96	10	—	—
施設全体			1.04	1.00	0.96			

—：データ無し

経費の多寡

施設によって一戸当たりのコスト総額の差が大きく、特に維持管理費の差が顕著になっています。

図表 公営住宅の「施設機能（サービス面）」の評価結果（経費の多寡）

No	地域	施設名	延床面積	管理個数	維持管理・運営コスト				延床面積当たりのコスト	平均額との差	評価点
					維持管理費	運営経費	人件費	総額			
			m ²	戸	千円	千円	千円	千円	円/戸	%	点
1	打田	古和田改良住宅	670	12	289	22	—	311	464	▲ 33	20
2	打田	西井阪（南）改良住宅	356	6	119	12	—	130	367	▲ 47	20
3	打田	西井阪（北）改良住宅	1,117	20	37	58	—	95	85	▲ 88	30
4	粉河	東町住宅	83	3	0	2	—	2	27	▲ 96	30
5	粉河	井田公営住宅	1,731	55	766	67	—	833	482	▲ 30	20
6	粉河	鍛冶町住宅	635	6	0	3	—	3	5	▲ 99	30
7	那賀	応神公営住宅	337	12	15	9	—	24	71	▲ 90	30
8	那賀	後田公営住宅	365	12	0	33	—	33	91	▲ 87	30
9	那賀	下野井改良住宅	3,078	54	26,929	188	—	27,117	8,809	1,181	5
10	那賀	下川原改良住宅	147	2	119	6	—	125	852	24	10
11	那賀	庄屋改良住宅	1,761	24	822	151	—	973	552	▲ 20	20
12	那賀	第2中野井改良住宅	1,773	24	9,439	60	—	9,499	5,357	679	5
13	那賀	中野井改良住宅	1,908	26	699	84	—	783	410	▲ 40	20
14	那賀	下野井公営住宅	798	14	212	39	—	251	315	▲ 54	30
15	那賀	中野井公営住宅	1,050	20	218	68	—	286	272	▲ 60	30
16	那賀	下野井南改良住宅	440	6	63	19	—	82	186	▲ 73	30
17	那賀	下野井北改良住宅	587	8	420	24	—	444	756	10	10
18	那賀	上野井改良住宅	734	10	6,882	24	—	6,905	9,409	1,268	5
19	那賀	西部改良住宅	147	2	201	2	—	203	1,386	102	5
20	那賀	南部第1改良住宅	238	3	0	3	—	3	14	▲ 98	30
21	那賀	南部第2改良住宅	220	3	0	2	—	2	10	▲ 99	30
22	那賀	南部第3改良住宅	223	3	5	3	—	8	35	▲ 95	30
23	那賀	南部第4改良住宅	238	2	0	2	—	2	10	▲ 99	30
24	那賀	王子第1改良住宅	159	2	9	2	—	11	69	▲ 90	30
25	那賀	王子第2改良住宅	159	2	0	2	—	2	14	▲ 98	30
26	那賀	王子第3改良住宅	159	2	0	2	—	2	12	▲ 98	30
27	那賀	城山（南）公営住宅	1,291	40	101	33	—	134	104	▲ 85	30
28	那賀	城山（北）公営住宅	1,085	20	237	20	—	257	237	▲ 66	30
29	桃山	調月宮ノ前住宅	678	20	3,385	22	—	3,407	5,027	631	5
施設全体			22,168	413	50,966	963	—	51,929	56		

—：データ無し

《公営住宅》
《公営住宅》

「施設機能（サービス面）」の評価結果

現在の需要及び経費の多寡に関する評価点の相違により、ランク A からランク D まで、各施設のランクに差が表れています。

図表 公営住宅の「施設機能（サービス面）」の評価結果

No	地域	施設名	現在の需要	将来の需要	施設の配置	経費の多寡	評価点 合計	ランク
1	打田	古和田改良住宅	30	—	—	20	50	A
2	打田	西井阪（南）改良住宅	30	—	—	20	50	A
3	打田	西井阪（北）改良住宅	20	—	—	30	50	A
4	粉河	東町住宅	30	—	—	30	60	A
5	粉河	井田公営住宅	20	—	—	20	40	B
6	粉河	鍛冶町住宅	20	—	—	30	50	A
7	那賀	応神公営住宅	30	—	—	30	60	A
8	那賀	後田公営住宅	30	—	—	30	60	A
9	那賀	下野井改良住宅	10	—	—	5	15	D
10	那賀	下川原改良住宅	30	—	—	10	40	B
11	那賀	庄屋改良住宅	20	—	—	20	40	B
12	那賀	第 2 中野井改良住宅	30	—	—	5	35	B
13	那賀	中野井改良住宅	20	—	—	20	40	B
14	那賀	下野井公営住宅	30	—	—	30	60	A
15	那賀	中野井公営住宅	10	—	—	30	40	B
16	那賀	下野井南改良住宅	30	—	—	30	60	A
17	那賀	下野井北改良住宅	30	—	—	10	40	B
18	那賀	上野井改良住宅	20	—	—	5	25	C
19	那賀	西部改良住宅	30	—	—	5	35	B
20	那賀	南部第 1 改良住宅	30	—	—	30	60	A
21	那賀	南部第 2 改良住宅	30	—	—	30	60	A
22	那賀	南部第 3 改良住宅	10	—	—	30	40	B
23	那賀	南部第 4 改良住宅	30	—	—	30	60	A
24	那賀	王子第 1 改良住宅	30	—	—	30	60	A
25	那賀	王子第 2 改良住宅	30	—	—	30	60	A
26	那賀	王子第 3 改良住宅	20	—	—	30	50	A
27	那賀	城山（南）公営住宅	30	—	—	30	40	B
28	那賀	城山（北）公営住宅	10	—	—	30	40	B
29	桃山	調月宮ノ前住宅	10	—	—	5	35	B

—：データ無し

③「建物性能」と「施設機能」による２軸分析評価

建物性能がc又はdランクが多く、施設機能はA又はBランクに集中するため、評価結果は区分3の施設が主体となっています。

図表 公営住宅の「建物性能」と「施設機能」の評価ランクと分析結果

No	地域	施設名	評価ランク		分析結果
			建物性能 (ハード面)	施設機能 (サービス面)	
1	打田	古和田改良住宅	c	A	区分3
2	打田	西井阪（南）改良住宅	c	A	区分3
3	打田	西井阪（北）改良住宅	c	A	区分3
4	粉河	東町住宅	c	A	区分3
5	粉河	井田公営住宅	c	B	区分3
6	粉河	鍛冶町住宅	c	A	区分3
7	那賀	応神公営住宅	d	A	区分3
8	那賀	後田公営住宅	d	A	区分3
9	那賀	下野井改良住宅	c	D	区分4
10	那賀	下川原改良住宅	d	B	区分3
11	那賀	庄屋改良住宅	d	B	区分3
12	那賀	第2中野井改良住宅	c	B	区分3
13	那賀	中野井改良住宅	d	B	区分3
14	那賀	下野井公営住宅	d	A	区分3
15	那賀	中野井公営住宅	c	B	区分3
16	那賀	下野井南改良住宅	d	A	区分3
17	那賀	下野井北改良住宅	c	B	区分3
18	那賀	上野井改良住宅	c	C	区分4
19	那賀	西部改良住宅	b	B	区分1
20	那賀	南部第1改良住宅	c	A	区分3
21	那賀	南部第2改良住宅	c	A	区分3
22	那賀	南部第3改良住宅	b	B	区分1
23	那賀	南部第4改良住宅	c	A	区分3
24	那賀	王子第1改良住宅	b	A	区分1
25	那賀	王子第2改良住宅	b	A	区分1
26	那賀	王子第3改良住宅	b	A	区分1
27	那賀	城山（南）公営住宅	d	B	区分3
28	那賀	城山（北）公営住宅	d	B	区分3
29	桃山	調月宮ノ前住宅	c	B	区分3

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

《公営住宅》
《公営住宅》

区分1	区分2	区分3	区分4
○当面は建物を維持し、施設機能も継続する施設	○建物は維持し、運営形態の見直しや一部機能の転換等により、施設機能の向上を図る施設	○現状の施設機能を継続するため、建替えや改修、他施設への移転等により、建物性能の向上を図る施設	○建物性能と施設機能の両面から、今後のあり方を重点的に見直す必要がある施設

サービス面	A	古和田改良住宅 西井阪（南）改良住宅 西井阪（北）改良住宅 東町住宅 鍛冶町住宅 南部第1改良住宅 南部第2改良住宅 南部第4改良住宅	王子第1改良住宅 王子第2改良住宅 王子第3改良住宅	
	B	下川原改良住宅 庄屋改良住宅 中野井改良住宅 城山（南）公営住宅 城山（北）公営住宅	井田公営住宅 第2中野井改良住宅 中野井公営住宅 下野井北改良住宅 調月宮ノ前住宅	
	C	上野井改良住宅	西部改良住宅 南部第3改良住宅	
	D	下野井改良住宅		
	d	c	b	a

区分3

区分1

区分4

区分2

ハード面

ハード面

9 その他施設

その他供施設（給処理施設、斎場・墓苑、消防・防災施設）については、受益者（利用者）が不特定かつ広範囲に渡っており、また稼働状況も個々の施設ごとに異なるなど施設機能（サービス面）の一律の評価が困難なことから、建物性能（ハード面）のみの評価を行っています。

9-1 供給処理施設

（1）施設概要

本市は現在、一般廃棄物処理施設を4施設有しています。地域別では、打田地域、粉河地域、那賀地域、桃山地域に1施設となります。

一般廃棄物処理施設解体事業により、すべての一般廃棄物処理施設を平成30年度までに除去（解体）を行う予定となっています。

図表 供給処理施設の概要

地域	No.	施設名	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設 施設 等	管理運営 状況
					名称等	構造	建築年	耐震 診断	耐震 改修		
打田	1	打田美化センター	1973	166	焼却場	S	1972	-	-	※1	直営
粉河	2	粉河クリーンセンター	1972	938	炉体建屋	S	1972	未実施	-	※2	直営
那賀	3	那賀アメニティセンター	1993	1,996	ごみ焼却施設	S	1993	-	-	※3	直営
桃山	4	貴桃クリーンセンター	1980	531	不燃物処理場	S	1983	未実施	-	※4	直営

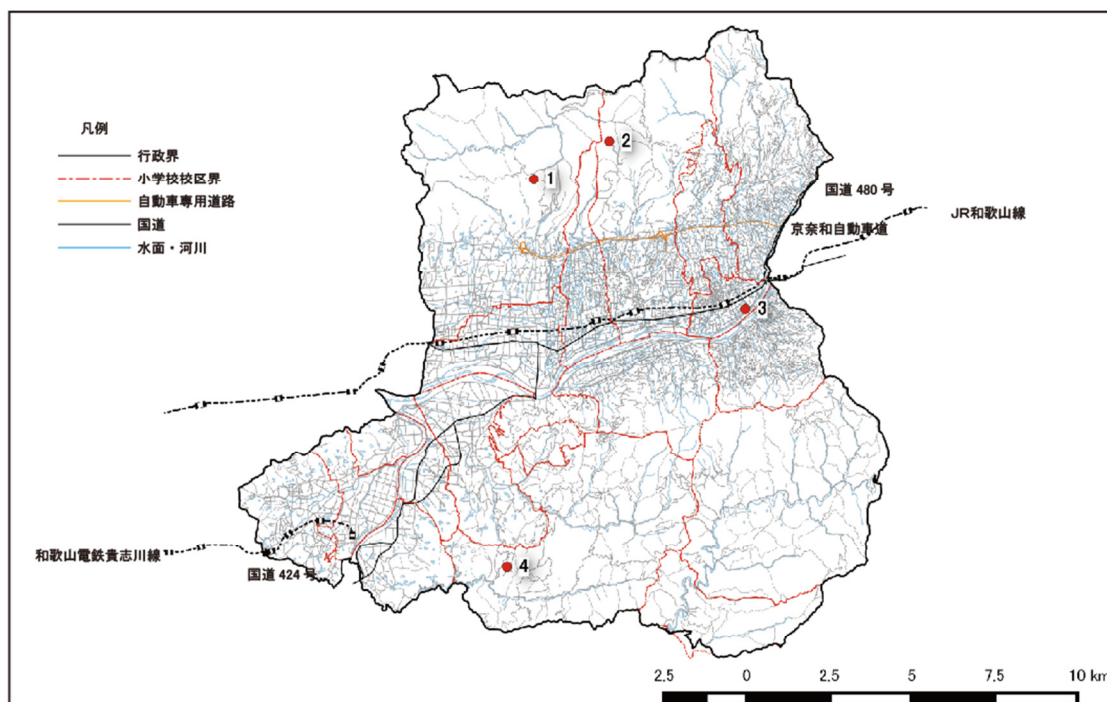
※1 「1 打田美化センター」：平成28年度に解体予定。

※2 「2 粉河クリーンセンター」：平成30年度に解体予定。

※3 「3 那賀アメニティセンター」：平成29年度に解体予定。

※4 「4 貴桃クリーンセンター」：管理棟以外は平成30年度に解体予定。

図表 供給処理施設の配置状況



《その他施設》
 《供給処理施設》

(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

供給処理施設は 1970 年代～80 年代に建設され、全施設耐震補強の必要な施設で、評価是那賀アメニティセンター以外 c 又は d ランクと低くなっています。

なお、各施設とも平成 28 年～30 年度にかけて、除却（解体）予定となっています。

図表 供給処理施設の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域 区分	施設名	建築年	経過 年数	評価 点	劣化 状況	評価 点	耐震 補強	評価 点	評価点 合計	評価 ランク	備考 (併設の 有無)
1	打田	打田美化センター	S47(1972)	43	0	5	5	必要	0	5	d	※1
2	粉河	粉河クリーンセンター	S47(1972)	43	0	2	15	必要	0	15	d	※2
3	那賀	那賀アメニティセンター	H5(1993)	22	10	2	15	必要	0	25	c	※3
4	桃山	貴桃クリーンセンター	S58(1983)	32	5	1	15	必要	0	20	c	※4
特記事項		※1「1 打田美化センター」：平成 28 年度に解体予定。 ※2「2 粉河クリーンセンター」：平成 30 年度に解体予定。 ※3「3 那賀アメニティセンター」：平成 29 年度に解体予定。 ※4「4 貴桃クリーンセンター」：管理棟以外は平成 30 年度に解体予定。										

9-2 斎場・墓苑

(1) 施設概要

本市では、現在斎場として3施設有しています。地域別では粉河地域、那賀地域、桃山地域にそれぞれ1施設となっています。

粉河火葬場及び桃山火葬場については、ともに平成26年度で供用廃止しており、平成28年度に除却（解体）予定となっています。

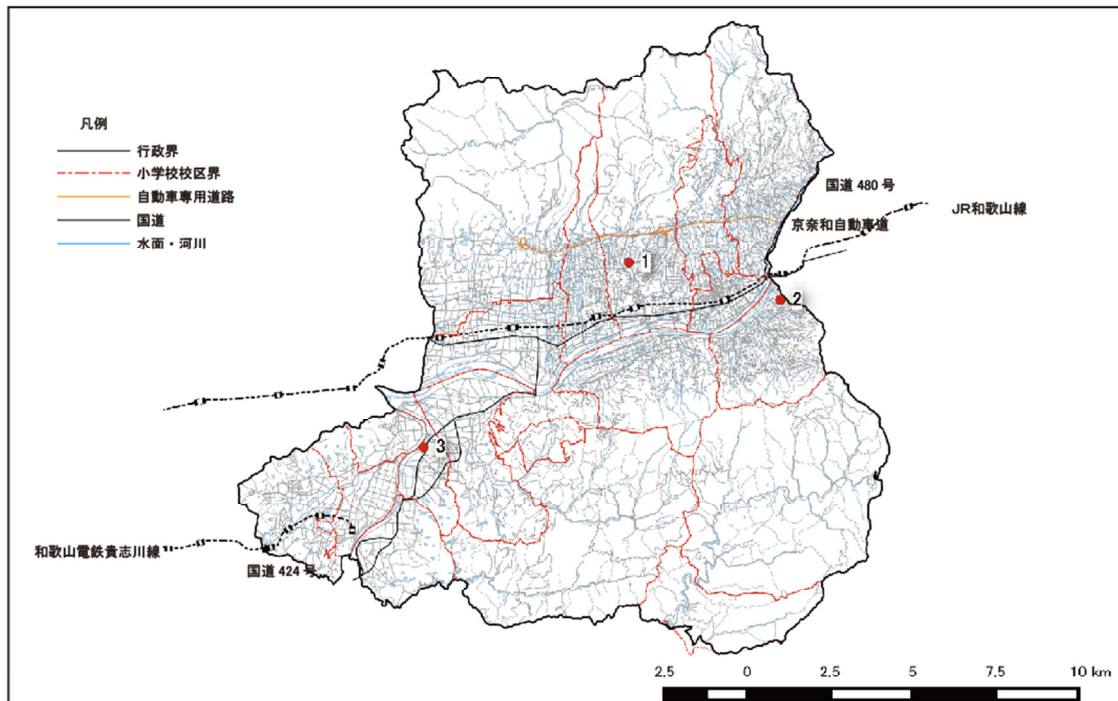
図表 斎場・墓苑の概要

地域	No.	施設名	開設年	延床面積 (㎡)	主な建築物			耐震化状況		併設施設等	管理運営状況
					名称等	構造	建築年	耐震診断	耐震改修		
粉河	1	粉河火葬場	1956	117	火葬場	W	1956	-	-	※1	直営
那賀	2	那賀斎場	1999	613	斎場	RC	1999	-	-		直営
桃山	3	桃山火葬場	1982	99	火葬場	RC	1982	-	-	※2	直営

※1 「1 粉河火葬場」：平成26年10月31日供用廃止、平成28年度解体予定。

※2 「3 桃山火葬場」：平成26年10月31日供用廃止、平成28年度解体予定。

図表 斎場・墓苑の配置状況



《その他施設》
《斎場・墓苑》

(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

粉河火葬場は 1950 年代、桃山火葬場は 1980 年代に建築され築 30 年以上経過した施設で耐震補強が必要な施設です。なお、両施設とも平成 26 年度で供用廃止しており、平成 28 年度に除却（解体）予定となっています。

図表 斎場・墓苑の「建物性能（ハード面）」の評価結果

No	地域 区分	施設名	建築年	経過 年数	評価 点	劣化 状況	評価 点	耐震 補強	評価 点	評価点 合計	評価 ランク	備考 (併設 の有無)
1	粉河	粉河火葬場	S31(1956)	59	0	0	20	必要	0	20	c	※1
2	那賀	那賀斎場	H11(1999)	16	15	0	20	不要	10	45	a	
3	桃山	桃山火葬場	S57(1982)	33	5	0	20	必要	0	25	c	※2
特記事項		※1「1 粉河火葬場」：平成 26 年 10 月 31 日供用廃止、平成 28 年度解体予定。 ※2「3 桃山火葬場」：平成 26 年 10 月 31 日供用廃止、平成 28 年度解体予定。										

9-3 消防・防災施設

(1) 施設概要

本市では、消防・防火施設として消防器具庫 122 施設、水防倉庫 14 施設、防火水槽 7 施設、その他消防・防災施設 3 施設の計 146 施設を有しています。

地域別では粉河地域が消防器具庫及び水防倉庫を中心に 44 施設と最も多く立地しており、その他地域では打田地域 28 施設、那賀地域 26 施設、桃山地域 23 施設、貴志川地域 25 施設となっています。

図表 消防・防災施設 保有状況

(単位：施設数)

施設(小分類)	地域					総計
	打田	粉河	那賀	桃山	貴志川	
消防器具庫	25	36	20	18	23	122
水防倉庫	2	7	1	2	2	14
防火水槽	1		3	3		7
その他消防・防災施設		1	2			3
総計	28	44	26	23	25	146

(2) 施設評価

①「建物性能（ハード面）」の評価

消防・防火施設の建物性能（ハード面）評価にあたっては、施設の劣化状況等についての把握状況をふまえて、以下の評価方法を用いました。

図表 消防・防災施設 「建物性能（ハード面）」の評価方法

評価項目	評価指標	評価の内容
経過年数 (20 点満点)	経過年数	20 点：経過年数が 10 年未満 15 点：経過年数が 10 年以上 20 年未満 10 点：経過年数が 20 年以上 30 年未満 5 点：経過年数が 30 年以上 40 年未満 0 点：経過年数が 40 年以上（経過年数不明を含む）
劣化状況 (20 点満点)	劣化状況	20 点：劣化なし 10 点：劣化あり
耐震補強の必要性 (10 点満点)	耐震補強の必要性の有無	10 点：耐震補強不要 0 点：耐震補強必要（耐震補強不明を含む）
評価ランク (50 点満点)	【a】 37.5 点 (50 点×75%) 超 【b】 25 点 (50 点×50%) 超 37.5 点以下 【c】 12.5 点 (50 点×25%) 超 25 点以下 【d】 12.5 点以下	

《その他施設》
《消防・防災施設》

消防・防災施設のうち、消防器具庫は建築年不明を除き 2000 年代以降に整備されたものが多く、劣化も少ないことから、建物性能の評価 a ランクまたは b ランクの施設が多くなっています。

一方で水防倉庫及び防火水槽については、1970 年代に整備された施設など建物性能の評価 c ランクが多数を占めており、一部 d ランクの施設も存在します。

図表 消防・防災施設の「建物性能（ハード面）」の評価結果

(単位：施設数)

施設(小分類)	評価ランク				総計
	a	b	c	d	
消防器具庫	42	49	31		122
水防倉庫		2	10	2	14
防火水槽			7		7
その他消防・防災施設		2	1		3
総計	42	53	49	2	146

